

【耐震化促進のためのパネル展示をしております！】

本文

南会津町役場2階の町政情報コーナーに耐震化を促進するためのパネルを展示しております。

役場にお立ち寄りの際には是非ご覧ください。

#南会津建設事務所 #南会津建設 #南会津 #福島 #東北 #建設 #土木
#ふくしまの建設 #耐震 #耐震改修 #耐震診断
#minamiaizu#fukushima#japan#civil_engineering#construction#ai
zu#tajima#architect



「耐震改修」とは?

- あなたの住まいの地震に対する弱点を補強する工事です。
- 住宅全体の改修が理想的ですが、居間や寝室など滞在時間が長い部屋だけを改修しても一定の効果を得ることができます。

■ **基礎の補強例** ～住まいを支える基礎コンクリート、の増し打ち～

・無筋のコンクリート基礎
コンクリート内に
鉄筋が入っていない

・ヒビの入った基礎

基礎の補強

●新たに鉄筋コンクリート造の基礎を打ち合わせます。
●あと施工アンカー等で既存部分との定着を図ります。

■ **壁の補強例** ～地震の揺れに耐える耐震壁を必要箇所へ設置～

揺れによるゆがみ

耐震壁

土金 アンカーボルト

筋かい

柱と柱の間に筋かいを入れ、ゆがみを防止します。

■ **改修工事費の目安** ～木造平屋建・延べ面積別の標準的工事費～

建物の延べ面積	50㎡	75㎡	100㎡	125㎡	150㎡	175㎡	200㎡	225㎡	250㎡
耐震改修工事費の目安	110万円	140万円	160万円	180万円	200万円	220万円	240万円	260万円	270万円

「耐震診断」とは?

- 一級建築士などの専門家が、あなたの住まいの状態を確認し、地震に対する安全性をチェックします。
- 状態が悪く「倒壊の可能性あり」と判定された場合は、専門家と相談し、耐震改修工事を検討しましょう。
- 耐震化の第一歩は、現在の住まいの強度を知ることです。
まずは耐震診断を実施して、必要な対策を考えましょう。

耐震診断でチェックするポイント

小屋根 (屋根裏)
雨漏り、通気状態、腐食・虫食いの有無

間取り・家の形状
建物の形状、壁・柱の配置、壁の開口部の配置

周辺
近隣の建物の高さ、擁壁の有無

建物の外側
壁面・窓の材質、外壁のひび割れ

床下
土留りの有無、コンクリート基礎、通気状況、筋かいの有無

基礎
基礎の形状、基礎コンクリート基礎、コンクリート基礎

耐震診断員の手帳

和室の壁では、建物の外壁が中絶し、基礎、床下、壁部などとも、目視や計測器具で調査します。

参考：日本住宅性能評価協会

住まいの耐震化の進め方

● 住まいの耐震化は、大きく3つのステップで進められます。
診断や設計、工事はそれぞれの専門家が対応します。

STEP 1
専門家があなたの家の地震に対する強さをチェック

STEP 2
あなたの家の弱点を補強する「補強計画」を作成

STEP 3
補強計画に従って、施工者が改修工事を実施

地震に強い住まいのポイント

● 建築基準法が定める現在の耐震基準(新耐震基準)は昭和56年6月から施行されており、それ以前に着工した建築物は新耐震基準による建築物に比べ地震に対する強度が低くなっています。

	旧耐震基準 昭和56年以前(1981年)	新耐震基準 昭和56年～(1981年～)
壁量	少ない	多
基礎	鉄筋なし	鉄筋あり
接合部	金物なし	金物あり

壁量不足による揺れ

金物がない接合部の地震

鉄筋がない基礎の地震

壁量不足による揺れ

● 地震に耐えるには、鉄筋コンクリートの基礎、十分な壁の量、金物等による柱や梁の接合部補強等が重要になります。

あなたの住まい 地震への備えは大丈夫ですか?

- 昭和56年5月以前に着工した住宅は旧耐震基準で建てられているため、現在の基準を満たすよう、対象住宅の耐震化を推奨しています。
- 過去の大地震に対しても、次の地震に耐えられる保証はありません。地震から生命や財産を守るため、住まいの耐震化を進めましょう。

このパネルは福島県と各市町村が「住まいの耐震化」の情報を提供するものです。